

館山さざなみ学校は東京都大田区立であるのに、なぜ千葉県の館山市にあるのか、また寄宿舎制、少人数学級はどの様な考えに基づいて出来たものなのでしょうか。

以下は、主に桐山直人氏の病弱教育史研究を参考としました。

明治三十三年の第三次小学校令で義務就学規定を明確化したが、その病虚弱児童には就学の義務を免除又は猶予すると規定されました。そのため、就学義務を免除・猶予された児童への教育をいかに保障するかという問題が生じました。

そこで医療団体、教師、地域、教育行政などが「家庭修学」として制度にない病虚弱児童の為の学校を各地に設立する運動が起り、そしてこの制度外の学校であることは、学校の立地・形態の大きな要素となりました。

1917年（大正6年）に最初の病虚弱児童のための寄宿舎制小学校の白十字林間学校はフランスのウェルネー林間学校を参考に開設され、後の同種小学校に影響を与えました。

また東京市・区では「家庭修学」のもとで学籍を地元や地元小学校に置き、「校外教授」の形式で他県で運営を行いました。このことは東京のみの独特な制度であり、現在も23区の病虚弱児童学校は千葉県、神奈川県、静岡県にあります。

ただし館山さざなみ学校の前身である蒲田区臨海学園（大田区立宇佐美養護学園）は館山さざなみ学校と同様に学籍をも当該校に置いていましたが、なぜその様な形になったのかは不明です。

現存する健康学園（平成25年現在）

中央区立宇佐美学園（静岡県伊東市）

豊島区立竹岡健康学園（千葉県富津市）

* 同様の趣旨で設立されている区立特別支援学校

大田区立館山さざなみ学校（千葉県館山市）

板橋区立天津わかしお学校（千葉県鴨川市）

葛飾区立保田しおさい学校（千葉県安房郡鋸南町）

* 23区外の健康学園

都立久留米特別支援学校（東京都東久留米市）

閉園した健康学園

括弧内は所属校を表す。

- 千代田区立鎌倉臨海学園（千代田区立番町小学校）
- 港区立伊豆健康学園（港区立芝浦小学校）
- 新宿区立箱根岡田高原学園（新宿区立津久戸小学校）
- 文京区立岩井学園（文京区立窪町小学校）
- 台東区立岩井学園（台東区立黒門小学校）
- 台東区立保田学園（台東区立小島小学校）
- 墨田区立健康学園（墨田区立中和小学校）
- 江東区立新舞子健康学園（江東区立元加賀小学校）
- 目黒区立興津健康学園（目黒区立不動小学校）
- 大田区立宇佐美養護学園（館山さざなみ学校の前身）
- 大田区立岩井養護学園（大田区立池上第二小学校）
- 世田谷区立三浦健康学園（世田谷区立玉川小学校）
- 渋谷区立富山健康学園（渋谷区立常盤松小学校）
- 中野区立館山健康学園（中野区立桃丘小学校）
- 杉並区立南伊豆健康学園（杉並区立西田小学校）
- 荒川区立湊健康学園（荒川区立第二日暮里小学校）
- 板橋区立大磯学園（天津わかしお学校の前身 / 板橋区立常盤台小学校）
- 練馬区立下田学園（練馬区立早宮小学校）
- 足立区立上総健康学園（足立区立千寿小学校）

1) 健康学園の歩み

文部科学省一近代教育制度の発達と拡充より
身体虚弱・病弱児の指導は、明治中期からの学校衛生の重視に伴い次第に課題視されてきたが、それが自覚的に取り上げられるのは大正中期以降でした。既に夏季休暇中の虚弱児保養施設としては明治三十八年東京の小児科医の提唱による神田精華小学校の妙義山麓（ろく）への休暇集落が先駆けとなり、恒常的な養護・教育施設的最初は四十三年に千葉県勝山に開設された東京市養育院安房分院であり、養護学校としての最初は結核予防団体である社団法人白十字会が大正六年八月神奈川県茅ヶ崎に設立した林間学校でした。これ以後大阪・千葉・静岡などにも類似の学校が設置されていき、栄養学級・養護学級などと呼ばれ、虚弱病弱児のための特別学級は昭和十年には全国で 209 学級に達しました。

2) 東京市養育院安房分院

東京市養育院安房分院は渋沢栄一によって虚弱児童の転地療養施設として明治42年に千葉県舟形に開設されました。

養育院では小学校教育はしましたが、義務教育の履修が出来ませんでした。1936年(昭和11年)家庭修学規定を適用し、小学校資格を得ることが出来るようになりましたが、その後国民学校令によって家庭修学認められなくなり、1941年(昭和16年)館山市と船形国民学校分教室とする覚書を取り交わし、小学校としての認可を受けました。渋沢栄一は院長として、勉強だけでなく子供の情操にも気を配る様に職員に指示がなされていたと云うことです。

現在も同地に東京都舟形学園として保護者のいない児童等を養護し、自立支援をしています。

3) 白十字林間学校

結核予防団体白十字会が1917年(大正6年)に神奈川県茅ヶ崎町大和田浜にフランスのウェルネー林間学校を参考に開設した、体質虚弱又は腺病質の児童を対象とする寄宿制小学校です。小学校令第36条第1項但書による「家庭修学」の認可を得たキリスト教に基づく私立小学校で、日本における最初の養護学校となりました。

同校の生徒は比較的裕福な家庭の子弟であり、卒業生には学者文化人も多数排出しました。

現在は同地において児童養護施設として継続しています。

* その後、身体虚弱・病弱児のための学校は各地に誕生し、1923年(大正12年)から1935年(昭和10年)までに14校になりました。

また小学校内で虚弱児教育を行う養護学級は1931年(昭和6年)までに89校が開設されました。

4) 熱海外気学校

熱海外気学校は1931年(昭和6年)静岡県熱海町で高塚医院を営む内科医高塚賢三が、同町の咲見町に設立した病・虚弱児の寄宿療養と小学校教育を行う学校として設立されました。

東京市の教育局長の藤井ほか、東京市各区の有力な校長先生達の自発的参加により東京市のモデル事業として計画されました。

5) 麴町臨海学園・・・最初の公立養護学校

1934年（昭和9年）熱海外気学校の成果をもとに、東京麴町区が神奈川県鎌倉に開設しました。

* 養護学校はこの後、昭和11年以降急速に増加し、東京では昭和18年までに都立・区立計16校となりました。

6) 大森区臨海学園・蒲田区臨海学園

大森区臨海学園は1936年（昭和11年）千葉県安房郡岩井町に館山さざなみ学校の前進である蒲田区臨海学園は1939年（昭和14年）静岡県伊東市宇佐美町に設立されました。

東京市のほとんどの養護学園の学籍は原校にありましたが、蒲田区臨海学園は区独自の独立した学校として設立されました。

*1964年（昭和39年）ごろから大気汚染による喘息問題に呼応して、健康学園が増加するようになりました。

（参考資料）

茅ヶ崎の小さな学校－桐山直人 草土文化
白十字林間学校の32年間

子供が変身する学校－前田武彦 雲母書房
中野区立館山健康学園（現在、廃園）の教師として過ごした4年間
著者の主張

ぼくたちのすぐそばに、子供の自主性や個性を当然のことにように認め、強制も管理もほとんど必要の無い夢の様な学校がある。「健康学園」という名のその学校は、混迷を深める教育界がこれから追求すべき理想像をすでにずっと以前から実践していた。

機会不平等－斉藤貴男 文春文庫
著者は豊島区立竹岡健康学園の卒業生であり本書で健康学園の廃止問題にも触れている

病弱教育史－桐山直人

桐山直人氏の病弱教育史研究のホームページ